

平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	介護福祉士育成の高度化へ対応した教育システムの構築		
法人名	学校法人秋葉学園		
学校名	千葉情報経理専門学校		
代表者	理事長 秋葉 英一	担当者 連絡先	高山 佳久 043-246-4211

1. 事業の概要

平成19年3月、近年の介護・福祉ニーズの多様化と高度化に対応した、人材の資質向上を目的とする法改正がされた。これにより専門学校の養成課程に学ぶ学生の介護福祉士資格取得方法が、所定の学習項目を修了すれば資格取得できる現行方法から、国家試験の受験が必要な制度に移行する。

この変化に対して専門学校としては、新たに国家試験への対策が必要になると共に、法改正によって求められる高い資質を有する介護人材を輩出するためにも介護福祉士の育成自体の高度化を図ることが喫緊の課題となった。

本事業では、このような認識に立ち、インターネットをベースとした各種システムも活用して、国家試験対策も含んだ、介護福祉士の育成の高度化を図る教育プログラムの開発を行った。その結果、新しい法制度の基準をクリアーできる教育プログラムの開発と、国家試験受験対策学習システムの開発を実現した。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

本事業の目的は、介護福祉士制度の変革に対応した高度化を教育プログラムの上で図ることであり、それに照らせば、新制度に準拠した2年課程の教育プログラムを開発できたこと、介護福祉士国家試験の受験対策として有効なeラーニングシステムを開発できたことによって、事業の目的は100%達成したといつてよい。

②事業により得られた成果

本事業で開発した1877時間の教育プログラムについて、領域別にその概要を記述する。

- 人間と社会(270時間)
 - 人間の理解…2科目60時間
 - 社会の理解…1科目60時間
 - 選択科目…5科目から150時間
- 介護(1307時間)
 - 介護の基本…2科目180時間
 - コミュニケーション技術…1科目60時間
 - 生活支援技術…3科目300時間
 - 介護過程…1科目150時間
 - 介護総合演習…1科目120時間
 - 介護実習…5科目497時間
- こころとからだのしくみ(300時間)
 - 発達と老化の理解…1科目60時間
 - 認知症の理解…1科目60時間
 - 障害の理解…1科目60時間
 - こころとからだのしくみ…1科目120時間

また、上記教育プログラムとは別に、eラーニングシステムとして、次のような体系に基づく国家試験受験対策プログラムを開発した。

●CBT学習システム

- 基本問題…過去5回分、600問の問題から構成
- 分野問題…上記600問を分野ごとに学習可能なように構成
- 事例問題…上記600問から分野ごとに事例問題のみを学習可能なように構成
- 個別問題…上記600問から分野ごとに個別問題のみを学習可能なように構成

●協調学習システム

- 国家試験受験者と教員が情報や意見を交換する仕組み

③今後の活用

21年度の新入生及び2年生に対して、開発した教育プログラム及び国家試験受験対策eラーニングシステムを適用しつつ、さらに介護福祉士養成カリキュラムの高度化を図る。

④次年度以降における課題・展開

今後、開発した国家試験受験対策eラーニングシステムを運用する中で、新しい国家試験の問題や模擬試験問題等を追加したり、解説コンテンツを改善したりするなどして、一層の充実を図る。

また、このシステムの運用から得られたノウハウを日常の授業の中で活かすなど、教育の高度化に向けた好循環を目指したい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

制度改正に対応した教育プログラムの開発に役立てることを目的として、実態調査を実施した。

第一に、福祉・介護サービス分野の現状を調査し、法改正の背景を明らかにすることによって、制度の変化の趣旨・意義について詳細に分析した。

第二に、介護福祉士国家試験の内容について調査し、試験合格に必要な科目、学習量等を明らかにするとともに、過去の出題を徹底的に分析することによって、合格のポイントを洗い出した。

第三に、介護福祉士資格の取得を目的とした既存の対策講座を調査し、科目体系、時間数、学習方法、教材等に関する情報を収集・整理した。

②カリキュラムの開発

新しい法制度の下では、介護福祉士養成機関には、三つの領域に分けた科目体系と1800時間以上の学習量を要件としたカリキュラムの構築が求められている。本事業ではこの要件を満たし、かつ、法改正の趣旨を十分に汲み入れ、さらに、国家試験対策の内容を含むカリキュラムの構築に努めた。

その結果、1877時間の教育プログラムと、いつでもどこでも学習状況に応じて利用可能な国家試験対策eラーニングシステムを開発した。

開発したeラーニングシステムは、国家試験対策CBT(Computer Based Testing)システムと協調学習システムから構成されている。

前者は、過去5回分の国家試験問題のすべてをデータベース化し、そこから、「実施回ごとに演習する(本番同様に)」、「分野別に演習する」、「事例問題に特化して演習する」、「個別問題(正誤方式の基本的レベルの問題)に特化して演習する」ためのメニューを用意し、学習の進捗状況や学習ニーズに合わせた利用を可能にしたものである。

後者は、eラーニングシステムの利用者及び教員が相互に協調して学習することを支援する仕組みである。

③実証講座

実証講座は開発した国家試験対策eラーニングシステムの有効性を検証するために、3日間の日程を編成し、専門学校介護福祉科の2年生47名の被験者を対象として実施した。有効性の検証は、客観的指標とアンケートによる主観的評価の両面から行った。

実施結果について、まず、学習時間や学習量、成績といった客観的指標を測定した。学習時間、学習量は講座の時間+アルファ程度の値になり、講座内における集中的な学習を主体としながらも、一部の被験者は自宅学習にも取り組んだ様子が見え、結果となった。

成績は全問の平均が61点になり、合格ギリギリの線が出た。被験者は現状において特に国家試験対策学習をしていない学生であるから、この成績はまずまずといったところである。

他方、得点の分布を取ったところ、平均点より下の層の分布がきれいな正規分布に近いものになっており、このeラーニングシステムの妥当性を示すものとなった。このことは、このまま過去問題を充実させたCBTシステムとして発展させ、教育プログラムの中に積極的に組み込むことによって、全体的なレベルアップを図れる可能性の大きさを示している。

また、学習量と成績の関係に正の相関が観られたことも、CBTシステムの有効性を裏付けるものとして注目される。

アンケートの結果の主要なものとしては、60%以上の被験者が「積極的に今後も利用したい」と回答したこと、70%以上の被験者が「専門知識習得に有効」と回答したことから、十分な有効性を確認できたと考えられる。使い勝手についても概ね良好な反応を得たが、いくつかの改善点に関する意見もあり、それは今後の改善につなげていきたい。

④その他

本事業の特色は、新制度に対応する上で、介護福祉士養成の長年の経験を活かした中身の濃い教育プログラムの開発にある。また、その経験を活かしたeラーニングシステムを開発することが、オーソドックスではあるが、オリジナリティがあり、かつ、即役立つ実用性の高い教育プログラムにつながると考え、実践したところに特色がある。